

令和 8 年度

大阪大学

数理・データ科学教育研究センター 金融・保険部門
【教育プログラム便覧】

2026 年 4 月 1 日



大阪大学 数理・データ科学教育研究センター
Center for Mathematical Modeling and Data Science, The University of Osaka

令和 8 年度 数理・データ科学教育研究センター (MMDS)

金融・保険部門

教育プログラム便覧 目次

| | |
|-----------------------------|----|
| 1. MMDS 金融・保険部門長メッセージ | 1 |
| 2. MMDS 金融・保険部門の設立理念 | 2 |
| 3. MMDS 金融・保険部門の特色 | 2 |
| 4. 教育プログラム体系 | 4 |
| 5. コース概要 | 5 |
| 6. 修了後のキャリアパス | 6 |
| 7. 事務手続き案内 | 7 |
| 8. カリキュラム表 | 8 |
| 9. 科目対応時間割表 | 11 |
| 10. 学年歴 | 16 |

〒560-8531 大阪府豊中市待兼山町 1-3

大阪大学大学院基礎工学研究科 I 棟 101 号室 A

Tel : 06-6850-6091 (代表) / 6279 (教務関係)

Fax : 06-6850-6092

URL : <http://www-mmds.sigmath.es.osaka-u.ac.jp>

MMDS 金融・保険部門長メッセージ

大阪大学金融・保険教育研究センター（Center for the Study of Finance and Insurance、以下、CSFI と略）はファイナンス・金融工学と保険・年金数理を一体で捉えた学際的な文理融合型教育プログラムを開発・実施するために、経済学研究科、理学研究科、情報科学研究科、基礎工学研究科の学内 4 研究科の連携のもと、平成 18 年（2006 年）4 月に設立されました。しかし、社会の複雑システムは金融・保険に留まらず、環境や医療など様々な分野にも広がっています。さらに、その形態はグローバル化、IT 化の進展に伴って、大規模化、多様化の様相を示しています。このような複雑システムを解析するためには、数理モデリングやデータ科学分野の知見や方法を取り入れる必要が出てきました。そこで、CSFI は、平成 27 年（2015 年）10 月 1 日に数理・データ科学教育研究センター（Center for Mathematical Modeling and Data Science、以下、MMDS と略）に発展・改組することとなりました。MMDS は、CSFI を母体とした金融・保険部門と、新設のモデリング部門、データ科学部門の 3 部門から構成されています。

MMDS 金融・保険部門は大阪大学大学院生全員を対象に教育プログラム「副専攻プログラム（金融・保険）」を提供しています。「副専攻プログラム（金融・保険）」は金融経済・工学コース、インシュアランスコース、数理計量ファイナンスコースの 3 つのコースを設けており、それぞれのコースは、金融経済・工学に関する幅広い知識の習得（金融経済・工学コース）、アクチュアリー（保険計数人）、保険年金業務の知識とスキルの習得（インシュアランスコース）、高度な数理的・計量的手法の習得（数理計量ファイナンスコース）を目的としています。これらの教育プログラムで育成される人材は、金融経済システムの安定に不可欠な社会・制度的側面、数理・科学技術的側面の双方においてバランスのとれた文理融合型のグローバルな金融・保険スペシャリストであり、教育プログラム修了者は、各種金融機関、生命保険・損害保険・信託銀行、シンクタンクなどでクウォンツアナリスト、フィナンシャルアナリスト、アクチュアリーとして活躍しています。

MMDS 金融・保険部門の研究活動としては、最新の金融・保険に関する知識と情報を共有するために、「中之島ワークショップ」を毎年開催しています。また国際ワークショップを隔年で開催し、世界的に高度な金融・保険の技術を有する国内外の実務家・研究者との交流を図っています。加えて、MMDS 金融・保険部門の VXJ (Volatility Index Japan) 研究グループは、日本の株式市場における将来のボラティリティに対する一つの指標として、一般に恐怖指数と呼ばれるボラティリティ指数の研究を行い、2008 年から公開しています。現在でも VXJ という名称でボラティリティ指数の研究開発・公開を続けています。

CSFI 設立以来、21 回目の春を迎えます。その間、我々の教育プログラムは、「高度副プログラム（金融・保険）」から、「副専攻プログラム（金融・保険）」に変わりました。例年 100 名を超える受講者がおり、大阪大学副専攻プログラムの中でも受講者数の上位を常に誇っております。修了者も 200 名を超えました。このような成果はひとえに関係者の皆様のご支援やご協力の賜物であり、心より御礼を申し上げる次第です。国際競争力を有する金融・保険スペシャリストの需要は高まる一方であり、MMDS 金融・保険部門は日本における人材育成ならびに研究のセンターとしての役割を今後とも担っていくことが使命であると考えております。関係者の皆様の一層のご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

大阪大学 数理・データ科学教育研究センター 金融・保険部門長
太田 亘

MMDS 金融・保険部門の設立理念

近年、世界標準のリスク管理体制の構築、ならびに少子高齢化社会に対応した年金制度や資産運用業務の整備の必要性が高まっています。このような状況のもとで、個人、企業、地方自治体、国家、それぞれによる資産運用と、リスクの計測・分析・評価・管理を、経済合理性を以って、科学的に行う手法の開発・普及・蓄積が求められています。金融工学、あるいは数理計量ファイナンスと呼ばれる新しい学問分野は、そうした手法に関わるものとして、金融経済学、確率・確率過程論、統計学、オペレーションズ・リサーチ等にまたがる学際領域として産み出されたものです。事実、金融実務界では、様々な派生商品（デリバティブ）が、この新分野において近年構築された理論に基づいて、設計・開発され、市場あるいは相対取引において適正価格で売買され、リスク管理に広く用いられるようになってきました。

ところで、ファイナンス・金融工学と保険・年金数理とは、対象とするリスクのカテゴリーは異なるものの、直面するリスクを計量化した上で、コントロール、あるいはヘッジするための方法論を提供する、といった点では共通です。そこで、専門家（研究者・実務家）の間では、それらを総合的に研究・教育されるべきであるとの共通の認識が形成されつつあります。規制緩和の結果、制度的にも銀行・証券・保険の境界が消滅したことにより、金融のコングロメリット化が進行していますので、保険・年金数理とファイナンス・金融工学を一体で捉えて、その研究・教育を行うべき状況が生じています。

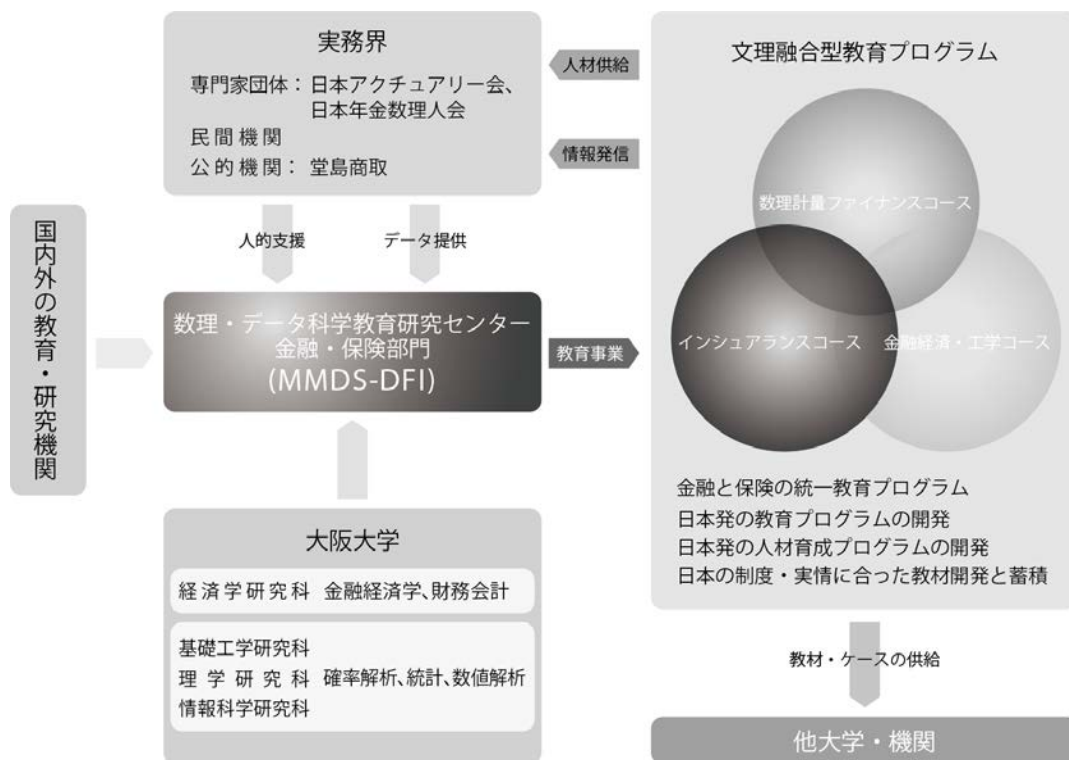
こうした状況下において、保険・年金数理をファイナンス・金融工学と一体で捉えた学際的な文理融合型教育プログラムを開発・実施するために、大阪大学では学際的・部局横断的なスタッフ陣を編成し、金融実務界からの協力も得て、金融・保険教育研究センター（CSFI）を設立致しました。これは、科学技術基本計画の基本理念にある、自然科学と人文社会科学の総合化、社会のための社会の中の科学技術、を謳う科学技術政策の総合性と戦略性に沿うものにもなっています。また、デリバティブなどの金融商品、保険・年金制度の設計に際しては、金融システム（金融市場・金融政策）の役割、経済活動、ライフサイクルにおける保険・年金制度の役割などについての深い理解が社会的にも求められていますが、CSFI で開発・提供される教育は、この要求に応えることを目指していました。しかし、近年のデータの巨大化、情報技術の発展、社会の複雑化・多様化などの理由から、さらに数理モデリングやデータ科学の分野の知識や技術を取り入れる必要が出てきました。そこで、CSFI は、平成 27 年（2015 年）10 月 1 日に数理・データ科学教育研究センター（MMDS）に改組することとなりました。MMDS は、金融・保険部門、モデリング部門、データ科学部門の 3 部門から構成され、CSFI の業務は MMDS 金融・保険部門に引き継がれています。MMDS 金融・保険部門は、金融面に関する安心・安全社会の構築と少子高齢化社会における安心なライフサイクルの実現に向けて、社会に貢献していきたいと考えています。

MMDS 金融・保険部門の特色

金融・保険科学の教育では、社会・制度的側面と数理・技術的側面という 2 つの側面をバランスよく扱う必要があります。金融・保険・年金に関するシステム・商品の設計・開発を行うには高度な数理・技術的素養が必要となる一方、同時に、複雑化した社会における、それらの経済的な意味・役割を正しく理解できることが必要とされるからです。逆に、経済的な意味・役割を正しく理解していても、設計・開発に必要な高度な数学的理論を正しく理解していなければ、その運用を誤ってしまったり、適切な分析・開発に至らなかったりということが起こり得ますので、十分な数

理・技術的素養をも同時に身に付けた人材を養成する必要があります。MMDS 金融・保険部門の特色は、社会的急務となっているこのような人材育成のための新たな文理融合型教育プログラムの開発にあります。

また、MMDS 金融・保険部門の大きな特色として、金融経済学、金融工学、数理ファイナンスに加えて保険数学との融合を視野に入れている点があります。大阪大学では、確率論・確率解析・統計学と金融経済学分野の教員の層が厚く、1999 年以来研究者ベースで FTA (Finance Theory and Applications) という部局の枠を超えたグループを立ち上げ、連携して教育研究を行ってきた実績があります。その実績を踏まえ、理学・基礎工学・情報科学・経済学にまたがった総合的な教育体制を組み、新たな教育システムを構築して、現行カリキュラムとは異なった新たな文理融合型教育プログラムと、そこで使用される教材を開発しています。また、対象とする分野が金融実務界とも密接に関わっておりますので、MMDS 金融・保険部門では実務家教員も加え、実務的教育も教育プログラムの中に組み込んでいます。



教育プログラム体系

■ 「副専攻プログラム（金融・保険）」

MMDS 金融・保険部門は、受講者の目的に応じて3つのコースを提供しています。

受講者の目的に応じたコース

| 目的 | 博士前期課程レベル（修士課程レベル） |
|--------------------------|--------------------|
| 高度な数理的・計量的手法の修得 | 数理計量ファイナンスコース |
| 金融経済・工学に関する幅広い知識の修得 | 金融経済・工学コース |
| アクチュアリー、保険年金業務の知識とスキルの修得 | インシュアランスコース |

プログラムの修了要件

以下の修了要件を満たした受講者にプログラム修了認定証を授与します。いずれのコースにおいても、「副専攻プログラム（金融・保険）」として修了認定されます。プログラム修了に必要な単位と所属研究科の課程修了に必要な単位との重複は認められません。

● コース別プログラム修了要件

| コース名 | 科目分類 | | | 合計 |
|------------|------|-------|-------|----------------|
| | 必修 | 選択必修 | 選択 | |
| 金融経済・工学 | — | 3科目以上 | 2科目以上 | 計8科目（16単位相当）以上 |
| 数理計量ファイナンス | — | 2科目以上 | 4科目以上 | 計8科目（16単位相当）以上 |
| インシュアランス | 2科目 | 2科目以上 | 2科目以上 | 計8科目（16単位相当）以上 |

- ※ いずれのコースも、エントリー時点から2年以内に修了要件を満たす必要があります。
- ※ 各コースの科目の分類についてはカリキュラム表をご覧ください。
- ※ すべての数理・データ科学教育研究センター（MMDS）金融・保険部門の科目は、4研究科（大学院基礎工学研究科・経済学研究科・理学研究科・情報科学研究科）のいずれかの科目と対応しています。詳細については科目対応時間割表をご覧ください。
- ※ 修了要件は、エントリー時点で異なりますので、エントリー時の便覧を参照して下さい。

コース概要

「副専攻プログラム（金融・保険）」では目的に応じて3つのコースを設けています。

- **数理計量ファイナンスコース**

「数理計量ファイナンスコース」では、3コース共通で学ぶファイナンス理論・実証の数学的基礎および金融経済に関する基礎教育を踏まえ、数理的・計量的手法の習得を主眼においた数理ファイナンスに関わる教育プログラムを提供しています。裁定理論・マルチンゲール理論に基づく市場の数理モデリング、とその数理解析、特にその解析手法として重要な、時系列解析、確率微分方程式・確率解析、統計解析、数理計画法、確率制御に関する豊富なカリキュラムを提供し、それらを援用した数理計量ファイナンスの高度な教育を目指しています。また、リスク計測・評価と管理に関する新しい数学的基礎理論に関する講義や実務家教員による実務的側面からの教育も用意しています。

- **金融経済・工学コース**

「金融経済・工学コース」では、近代経済学を確固としたバックグラウンドとして、ファイナンス理論を体系的に学ぶことを一義的な目的としています。その一方で、その実学としての側面を重視した工学的視点から、広範にわたる関連分野への応用力を効率的に修得することを大きな柱としています。したがって、ファイナンス・金融経済学・金融工学の基礎理論はもちろんのこと、確率・確率過程や最適化に関する基礎数理、金融資産の運用・価格付けやリスク・マネジメントに関する数理・数値計算スキル、各種金融データに対する統計的・計量・実証分析、金利や為替レートに関する金融政策の経済分析、事業や企業の分析・評価、等々について、非常に高度でバラエティに富んだカリキュラムを提供しています。

- **インシュアランスコース**

「インシュアランスコース」は他コースとの共通科目に加えて「保険数学 1」（担当は保険業務の経験者）の単位を取ることで修了できます。アクチュアリーへの数学試験対策はこの「保険数学 1」のみです。近年の保険業務は金融事情と密接な関係にあり、将来、保険業務に就いた後に確率過程論や数理ファイナンスの知識は必ず必要になり、それらは就職後に身につけるのが難しく大学院でこそ習得しておくべきだ、という考えに基づいて共通科目の履修を重視しています。

修了後のキャリアパス

| | 数理計量ファイナンスコース | 金融経済・工学コース | インシュアランスコース |
|-----|--|--|---|
| 職業 | 高度フィナンシャルエンジニア クウォンツアナリスト | 高度フィナンシャルアナリスト 高度フィナンシャルプランナー 新金融制度の設計・管理者 | ファイナンスの素養を持つアクチュアリー |
| 業務 | 投資技術開発 金融商品開発 投資技術コンサルティング 金融リスクの計測・管理・分析・評価 数理モデル開発 金融資産の評価・運用・管理 金融市場の調査・分析 システム開発 金融トレーディング | 各種証券分析 金融・財務コンサルティング 金融リスクの計測・管理・分析・評価 金融商品の開発 金融資産の評価・運用・管理 金融トレーディング 金融市場の調査・分析 金融・財務意思決定・戦略分析 事業プロジェクトの分析・評価 不動産資産の評価・鑑定 | アクチュアリー・年金数理人としての保険・年金商品設計 保険・年金業務の財務管理 保険・年金業務のリスク管理 |
| 就職先 | 各種金融機関 （銀行、証券会社、保険会社など） 運用部門、商品開発部門、研究部門 生保・損保・信託銀行 保険・年金数理部門 各種事業会社 財務部門、ベンチャーキャピタル シンクタンク システム部門、金融・証券、企業分析部門など コンサルティング会社 監査法人 （公認会計士） 弁理士 各種取引所 金融情報産業 中央銀行、中央・地方官庁 金融・財務政策立案・分析部門 大学教員 | | |

数理・データ科学教育研究センター（MMDS）金融・保険部門の教育プログラムで育成される人材は、これからの金融経済社会の安定に欠かせない文理の両側面を備えた人材です。そこに MMDS の文理融合型大学院教育の意義があります。この教育プログラムの修了者が携わる業務として、金融派生商品の設計や財務分析等に基づいたプロジェクトの評価、投資の決定を通じて、銀行や証券会社を支える、高度フィナンシャルエンジニア、クウォンツアナリスト、高度フィナンシャルアナリスト、高度フィナンシャルプランナー等が挙げられます。また、同時に、高度なファイナンスの素養を兼ね備えたアクチュアリーや、国際的に活躍できる研究者を目指す修了者もいます。

事務手続き案内（大学院生用）

「副専攻プログラム（金融・保険）」の修了認定を受けるためには、まずはKOANにより、プログラム履修の手続きをした上で、上記の修了要件を満たす必要があります。また、**プログラム科目の履修登録は、所属研究科の規定に従い、学期ごとにKOANにより、行って下さい。** シラバスは、カリキュラム表および科目対応時間割を参照のうえ、KOANで検索して下さい。

■ 履修対象者

- 「副専攻プログラム（金融・保険）」大阪大学・大学院 博士前期課程または博士後期課程に在籍する者

■ エントリー申請手続き期間と方法

エントリー申請受付の時期は年に2回（春・夏学期は4月、秋・冬学期は10月）あり、一度登録すれば、年度を超えて在学期間中有効です。ただし博士前期課程から博士後期課程に進学した場合には再度エントリー申請が必要になります(前期課程における修得科目は既修得科目として認められます)。申請期間については、副専攻・副プログラムの案内冊子を参照して下さい。

期間内に**KOANの「受講ガイダンスシステム」**

<https://koan.osaka-u.ac.jp>

により必要な手続きを行って下さい。

■ 修了認定の時期と方法

2022年度以降のエントリー者の修了認定は、自動で行われます。

※ 修了認定について質問等がある場合は、9月修了認定については7月末日までに、3月修了認定については1月末日までに、センター事務室までご連絡下さい。

※ 9月修了認定は、9月1日に成績開示がなされない科目(9月中に集中講義がある科目等)を除いて行うことを基本としますが、9月中の集中講義等を含めて修了認定を希望される場合は、7月末日までに、センター事務室までご連絡下さい。

※ 修了認定は、「副専攻プログラム（金融・保険）」エントリー申請以前に、大阪大学または大阪大学大学院に在籍して修得した科目を含めて行われます。科目等履修生等による単位修得がある場合およびその他確認したい事項がある場合、9月修了認定については7月末日までに、3月修了認定については1月末日までに、センター事務室にご連絡下さい。

■ センターからのお知らせについて

修了認定手続きの案内に限らず、センターからのお知らせは随時ホームページに掲載されますので、定期的に確認するようにして下さい。気付かないまま、何らかの不利益が生じた場合でも、センターは責任を負えませんので、十分に注意して下さい。

2026年度 カリキュラム表

| コース | 科目 分類 | 科目 コード | センター科目名 | 担当教員 | 開 講 状 況 | | 単位数 |
|---------|----------|-----------|----------------------|----------------|-----------|-----------|-----|
| | | | | | 春・夏 学期 | 秋・冬 学期 | |
| 金融経済・工学 | 選択 必修 | E-02 | 投資理論 | 太田 亘 | ● | | 2 |
| | | E-03 | 確率論の基礎 | 野場 啓 | ● | | 2 |
| | | E-05 | コーポレート・ファイナンス | 笠原 晃恭 | ● | | 2 |
| | | E-06 | 金融経済学 | 福田 祐一 | ● | | 2 |
| | | E-11 | 財務諸表分析 | 村宮 克彦 | ● | | 2 |
| | | E-13 | 金融数理概論 | 関根 順 | ● | | 2 |
| | 選択 | E-01 | 金融システムの基礎 | | 不開講 | | 2 |
| | | E-09 | 金融工学 | 不開講 | | 不開講 | 2 |
| | | E-10 | リスク・マネジメント | JEON HAEJUN | ● | | 2 |
| | | E-14 | 金融確率解析 | 矢野 裕子 | | ● | 2 |
| | | E-16 | 保険数学1 | 日本アクチュアリー会 | ● | | 2 |
| | | E-18 | アセット・プライシング | 不開講 | | 不開講 | 2 |
| | | E-24 | 確率解析 | 矢野 孝次 | ● | | 2 |
| | | E-26 | 金融数理特論 | 青沼 君明 | ● | | 2 |
| | | E-27 | 年金数理 | 小西 陽・小松 一志・畑 満 | ● | | 2 |
| | | E-56 | 最適化モデルとアルゴリズム | 山口 勇太郎 | ● | | 2 |
| | | E-59 | 計算ファイナンスの基礎 | 青沼 君明 | | ● | 2 |
| | | E-60 | 数理計量ファイナンスに関するトピックスI | | 不開講 | | 2 |
| | | E-62 | 実証会計分析 | 村宮 克彦 | | ● | 2 |

2026年度 カリキュラム表

| コース | 科目 分類 | 科目 コード | センター科目名 | 担当教員 | 開 講 状 況 | | 単位 数 | |
|----------|----------|-------------|---------------|----------------|-----------|-----------|---------|---|
| | | | | | 春・夏 学期 | 秋・冬 学期 | | |
| インシュアランス | 必修 | I-02 | 保険数学 1 | 日本アクチュアリー会 | ● | | 2 | |
| | | I-12 | 確率論の基礎 | 野場 啓 | ● | | 2 | |
| | 選択 | I-03 | 年金数理 | 小西 陽・小松 一志・畑 満 | ● | | 2 | |
| | | 必修 | I-05 | 統計解析 | 仲北 祥悟 | ● | | 2 |
| | | | I-19 | 確率解析 | 矢野 孝次 | ● | | 2 |
| | 選択 | I-61 | 投資理論 | 太田 亘 | ● | | 2 | |
| | | I-01 | 金融システムの基礎 | | 不開講 | | 2 | |
| | | I-09 | リスク・マネジメント | JEON HAEJUN | ● | | 2 | |
| | | I-13 | 金融数理概論 | 関根 順 | ● | | 2 | |
| | | I-20 | 金融確率解析 | 矢野 裕子 | | ● | 2 | |
| | | I-21 | 確率微分方程式 | 深澤 正彰 | | ● | 2 | |
| | | I-52 | 金融工学 | 不開講 | | 不開講 | 2 | |
| | | I-56 | 最適化モデルとアルゴリズム | 山口 勇太郎 | ● | | 2 | |
| | I-59 | 計算ファイナンスの基礎 | 青沼 君明 | | ● | 2 | | |

2026年度 カリキュラム表

| コース | 科目 分類 | 科目 コード | センター科目名 | 担当教員 | 開 講 状 況 | | 単位数 |
|------------|----------|-----------|---------------------------------|------------------|-----------|-----------|-----|
| | | | | | 春・夏 学期 | 秋・冬 学期 | |
| 数理計量ファイナンス | 選択 必修 | M-02 | 投資理論 | 太田 亘 | ● | | 2 |
| | | M-03 | 確率解析 | 矢野 孝次 | ● | | 2 |
| | | M-04 | 統計解析 | 仲北 祥悟 | ● | | 2 |
| | | M-05 | 統計的推測 | 内田 雅之 | | ● | 2 |
| | | M-06 | 多変量解析 | | 不開講 | | 2 |
| | 選択 | M-01 | 金融システムの基礎 | | 不開講 | | 2 |
| | | M-07 | 金融数理概論 | 関根 順 | ● | | 2 |
| | | M-08 | 金融数理特論 | 青沼 君明 | ● | | 2 |
| | | M-10 | 金融確率解析 | 矢野 裕子 | | ● | 2 |
| | | M-11 | 確率微分方程式 | 深澤 正彰 | | ● | 2 |
| | | M-13 | 時系列解析 | 高島 哲也 | ● | | 2 |
| | | M-14 | 金融工学 | 不開講 | | 不開講 | 2 |
| | | M-15 | リスク・マネジメント | JEON HAEJUN | ● | | 2 |
| | | M-44 | 計算ファイナンスの基礎 | 青沼 君明 | | ● | 2 |
| | | M-45 | 統計数理特論 | 丸尾 和司 | ● | | 2 |
| | | M-46 | 数理計量ファイナンスに関するトピックス I | | 不開講 | | 2 |
| | | M-47 | 年金数理 | 小西 陽 ・小松 一志 ・畑 満 | ● | | 2 |
| | | M-51 | 意思決定とデータ科学 | | 不開講 | | 2 |
| | | M-52 | Data Science and Case Studies I | | 不開講 | | 2 |
| | | M-53 | 数理ファイナンス演習 | | 不開講 | | 2 |

春・夏学期 科目対応時間割表

本表は変更の可能性もございますので、あらかじめご了承ください。正式の時間割表として、各研究科等が公表している表をご参照下さい。

| 曜日 | 時限 | 金融経済 ・工学 | インシュ アランス | 数理計量 ファイ ナンス | センター科目名 | コード | 授業科目名 | 単 位 数 | 開講部局 | 教員 | 教室 |
|----|----|-------------|--------------|--------------------|---------------|-----------|-----------------|-------------|---------|-------|--------|
| 金 | 1 | | | | | | | | | | |
| | 2 | E-24 | I-19 | M-03 | 確率解析 | 240024 | 確率論概論Ⅱ | 2 | 理学研究科 | 矢野 孝次 | 理 E304 |
| | | | | | | 290346 | 確率解析 | | 基礎工学研究科 | | |
| | 3 | E-05 | | | コーポレート・ファイナンス | 232107(M) | コーポレート・ファイナンス | 2 | 経済学研究科 | 笠原 晃恭 | 経 505 |
| | | | | | | 237123(D) | コーポレート・ファイナンス特研 | | 経済学研究科 | | |
| 4 | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | |

春・夏学期 集中講義 科目対応時間割表

| 曜日 | 時限 | 金融経済 ・工学 | インシュ アランス | 数理計量 ファイ ナンス | センター科目名 | コード | 授業科目名 | 単 位 数 | 開講部局 | 教員 | 教室 |
|------|----|-------------|--------------|--------------------|---------|--------|-------|-------------|---------|----------------------|----|
| 集中講義 | | E-27 | I-03 | M-47 | 年金数理 | 290863 | 年金数理 | 2 | 基礎工学研究科 | 小西 陽 小松 一志 畑 満 | 未定 |
| | | | | M-45 | 統計数理特論 | 290723 | 数理特論Ⅱ | 2 | 基礎工学研究科 | 丸尾 和司 | 未定 |

2026(令和8)年度 学年暦

| 月 | 日 | 曜日 | 基礎工学研究科 | 理学研究科 | 経済学研究科 | 情報科学研究科 |
|----|-------|----|--|--|---------------------------------------|--|
| 4 | 上旬 | | 春・夏学期科目履修登録期間(4/1～4/21, 在学生は3/27～4/21) | 春～夏学期(通年科目を含む)履修登録(4/6 9:30～4/19 16:30) | 春～夏学期/春学期 履修登録期限(3/27～4/17) | KOAN履修登録(4/3～4/20)・履修科目届(G票)提出期間(4/3～4/20) |
| | 10 | 金 | 春～夏学期授業開始 | | | |
| 5 | 1 | 金 | いちよう祭(5/1～5/2: 授業休講), 4/30いちよう祭準備(授業休講), 5/3いちよう祭片付け | | | |
| 5 | 8 | 金 | 水曜日の振替授業実施日 | 水曜日の振替授業 | 水曜日の振替授業実施日 | 水曜日の振替授業実施日 |
| 7 | 2 | 木 | | | | 9月修了に係る博士学位申請書類 提出期限(予定) |
| 7 | 28 | 火 | 春・夏学期科目の試験実施期間(7/28～8/10) | | | |
| 8 | 4 | 金 | | 春～夏学期開講科目試験実施期間(8/4～8/10) | 春～夏学期試験実施期間(8/4～8/7, 8/10) | |
| | 中旬 | | 夏期休業(8/12～9/30) | 夏期休業(8/11～9/30) | 夏期休業(8/18～9/30) | 夏期休業(8/12～9/30) |
| | 17 | 月 | | | 補講・試験実施期間 | |
| 9 | 4 | 金 | | | | KOAN履修登録期間・履修科目届(G票)提出期間(9/4～10/9 予定) |
| | 13 | 日 | | 秋～冬学期(秋入学通年科目を含む)履修登録期間(9/13 9:30～10/14 16:30) | | |
| | 17 | 木 | 秋・冬学期科目履修登録期間(9/17～10/14) | | 秋～冬学期 履修登録期間(9/17～10/9) | |
| | 下旬 | | 秋季学位記授与式 | | | |
| 10 | 1 | 木 | 秋～冬学期授業開始 | | | |
| | 16 | 金 | 月曜日の振替授業実施日 | 月曜日の振替授業 | 月曜日の振替授業実施日 | 月曜日の振替授業実施日 |
| | 中旬～下旬 | | | | 「修士論文題目届」提出期限 | |
| 11 | 1 | 土 | 大学祭(11/1～11/3), 10/31大学祭準備(授業休講), 11/4大学祭片付け(授業休講) | | | |
| | 5 | 木 | 月曜日の振替授業実施日 | 月曜日の振替授業 | 月曜日の振替授業実施日 | 月曜日の振替授業実施日 |
| | 下旬 | | | | 「課題研究題目届」提出期限 | |
| 12 | 3 | 木 | | | 修士論文口頭報告会 | |
| | 下旬 | | 冬季休業(12/26～1/3) | 冬季休業(12/28～1/3) | 冬季休業(12/26～1/3) | 冬季休業(12/28～1/1) |
| 1 | 7 | 木 | | | | 3月修了に係る博士学位申請書類提出期限(予定) |
| | 上旬 | | | | 「修士論文・課題研究」提出期限 | |
| | 15 | 金 | 大学共通テスト準備日(授業休講) | | | |
| | 下旬 | | 秋・冬学期科目の試験実施期間(1/21～2/8)(1/22, 1/25, 2/4を除く) | 秋～冬学期開講科目試験実施期間(1/28, 2/2, 2/3, 2/5～2/8) | 秋～冬学期試験実施期間(1/28, 2/2, 2/3, 2/5, 2/8) | |
| 2 | 9 | 月 | | | 補講・試験実施期間(2/9, 2/10) | |
| 3 | 25 | 木 | 学位記授与式 | | | |

注意1 日付等は変更される場合があります。

注意2 ターム科目やその他詳細については各研究科学年暦・掲示板をご覧ください。

注意3 他研究科の科目の履修登録期間・履修取消期間等は、自分の所属する研究科の履修登録期間・履修取消期間等と異なる場合があります。実際の期間については各研究科の正式の案内をご確認ください。